

特集  
釣りの美学——静寂と興奮の狭間で

古来、釣りは趣味として、またはスポーツとして親しまれてきた。例えば1653年に出版されたIzaak Waltonの『The Compleat Angler』(邦題「釣魚大全」)は哲学に始まり(釣りをする前に)、魚の種類、釣り方、さばき方、料理方法などを綴った「釣り人の聖書」と呼ばれる。かの開高健もこの書の愛読家であり、釣りをするときは「そこにある静かなることを学べ(Study to be quiet)」という言葉が一番大切にしていた。

日本でも1723年(享保8)に旗本の津軽采女が著したとされる『河羨録』や江戸後期に黒田五柳が書いたとされる『釣客伝』において、釣りの心得や準備に始まり、やはり魚の種類と習性や釣り方、料理方法まで記されている。

このように、釣りは多くの釣り人によって、静寂と興奮の狭間で支持されてきた。それはなぜなのか。そして、魚を釣るという行為を通じて生まれる「水と人との関係性」についても考えてみたい。

## 目次

### 巻頭エッセイ

- 2 ひとしづく 水惑星との交信 大岡 玲

### 特集 釣りの美学——静寂と興奮の狭間で

- 6 歴史 江戸で花開いた釣りの文化——徳川治世下の釣客群像 長辻象平  
10 魅力 釣りを極めて「道」とする日本文化 ヒーター フランクル  
14 テンカラ 無駄をそぎ落とした究極の釣り「テンカラ」 石垣尚男  
18 編集部体験 江戸前のハゼ釣りに「和竿」で挑戦! 三ツ木新吉  
24 外来魚 釣って食べて学ぶ外来魚 平坂 寛  
28 科学 魚は釣られたことを覚えている?——「魚と人の交差点」を探る 吉田 誠  
31 環境 ごみを拾う釣り人たち——琵琶湖で始まった新たな交流  
35 文化をつくる「釣る」だけではない「釣り文化」 編集部

### 連載

- 36 水の文化書誌 50  
メコン川は流れる 古賀邦雄  
38 魅力づくりの教え 11  
まちの文化発信力を維持する人々  
岡山県倉敷市 中庭光彦  
42 食の風土記 11  
漁民から全国へ広まった「佃煮」 東京都中央区  
45 Go! Go! 109水系 15  
始良火山の大噴火が築いた「シラス文化圏」の肝属川 坂本貴啓  
50 センター活動報告  
51 編集後記/ご案内  
(敬称略)